

株主の皆様へ

「今期の業績を振り返って」

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2016年3月期（第18期）は、売上高、営業利益ともに公表数値を上回る業績を残すことができ、2期連続の黒字となりました。これも一重に株主の皆様のご支援の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

今期、グループの各セグメントの業績は、ほぼ計画通りに進みましたが、その中で、新規事業として開始したばかりのDTCビジネスが想定を大きく下回る営業成績でした。その結果、売上高の伸びに比し営業損益の伸びが鈍化しましたが、現在では事業効率化の目途もついており、来期の収益構造は改善すると考えています。一方で、経常損益、当期純利益につきましては、公表数値を下回る結果となりました。公表数値を下回った要因は、今後の当社グループの更なる飛躍に向けたM&A資金の調達費用、及び抗体医薬開発において、その活用が注目されている最先端の糖鎖技術を有する医化学創薬株式会社に関わる持分法損失によるものです。

我々は、これら戦略的営業外費用の増加を、基幹事業の売上高及び営業利益の増加で吸収する方向で、各事業の受注拡大を図りましたが、計画を上回る売上高及び営業利益だけでは吸収できず、若干未達となりました。但し、資金調達費用、及び実質的に研究開発費である当該持分法損失は今後のグループの成長及び拡大に大きく寄与してくるものと考えています。

私は、昨年、多額の先行投資が余儀なくされる創薬事業体と、グループの技術力・収益力・財務力とのバランスをとりながら関係強化を図り、当社創薬プラットフォームである基礎研究・非臨床・臨床・診断事業の価値最大化を実現することをご説明しました。前述の持分法損失、免疫生物研究所との資本提携、及び本日リリースしました株式会社CURED社に対する出資は全てこの戦略に基づくものです。創薬事業はその成果が出るまでに長期間を要しますが、私は、創薬事業体の成長戦略に合わせ、グループ創薬プラットフォームの機能拡充、規模拡大を実現しつつ黒字化を維持し、最終的には創薬事業体に対する投資成果を取り込むことで高い収益力を獲得したいと考えています。

新年度の業績予想につきましては、5月中旬に予定しております第18期決算発表時

に開示いたしますが、現在、事業化に向けて技術移管を進めているヒト化マウス事業に関わる研究開発費、更なる成長実現のためにグループ各社で実施予定の設備・人員投資、M&A 費用を吸収して、相応の予想数値を示したいと考えております。

当社は「創一流」の創業精神のもと「世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」という経営理念を誇りに日々の業務に取り組んでおります。

皆様のより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

株式会社トランスジェニック

代表取締役社長

福永健司